

## 【取組内容】



- 社会貢献活動「阪急阪神 未来のゆめ・まちプロジェクト」の取組の一環として、阪急電鉄と阪神電気鉄道で、2019年5月から、日本で初めてSDGsをテーマとする列車「SDGsトレイン」を運行。
- 国・自治体・市民団体・企業等50を超える団体と協働し、車両の外観のラッピングに加え、SDGsの解説や各主体の取組を紹介する約165種の車内ポスター等を通じて、列車全体でSDGsの認知度向上と具体的なアクションを喚起。
- 同トレインは、最新の省エネ車両を使用するとともに、実質100%再生エネルギーで運行している。
- 東急グループなど他の大手鉄道会社にもSDGsトレインの運行を呼びかけ、同様の取組が拡大。

## SDGs実施指針における実施原則（本アワード評価基準）

普遍性：	外観に加え、列車内でも多様なメッセージを発信するスキームは国内外での展開が可能であり、既に他社との連携も実現している。
包摂性：	多様な社会課題に取り組む市民団体との協働や、社会課題に関するポスター掲示等により、多様な視点を提供。
参画型：	約50の参画主体との協働や約165種のポスター紹介を通じ、幅広い関係者を巻き込んでいる。全てのコンテンツはWEBで閲覧可能。
統合性：	100%再エネ運行により環境面へ配慮すると共に、多様な社会的メッセージを発信することで、環境・社会・経済の統合を目指す。
透明性と説明責任：	定期的なWEB調査によりSDGsトレインの効果を検証し、関係者へ報告。市民団体との対話やWEB等での取組公開を実施している。

